

西海ゼミ30周年記念文集に寄せて

89年度OB
内田 元昭

拝啓 晩秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。我らが法政大学西海研究室に在籍いたしておりました時分には先生、先輩・同窓・後輩諸君には大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

敬具

西海先生、このたびは西海ゼミ30周年、おめでとうございます。

月日が経つのも早いもので、つい先日、法政大学を卒業したような気がするのですが、卒業して約20年が経っておりびっくりしました。ということは、私が西海ゼミにいたのは、西海ゼミの1/3地点のところだったということになるんですね。

それはさておき、今回、89年度OBを代表して文集の1駒を頂戴し大変光栄に感じております。

ただ、いざ書こうとすると、なかなか文章が思いつきません。

私は、卒業後、日本発条(株)という自動車用バネのメーカーに就職し、人に話すようなこれと言って面白い話はありませんし…。(笑)

というわけで、色々考えた結果、下記3章、先生への感謝の気持ちを込めて脈絡無く綴らせていただきます。

- ① 自己紹介(略歴)
- ② 私が西海ゼミにいた時に無くて、今あるもの そして今、感じること
- ③ 西海先生の深い話

— 記 —

① 自己紹介(略歴)

氏名:内田元昭 (188cm、B型、おとめ座、未年)

趣味:車(昔)、犬の散歩(今)

1990年3月 : 法政大学工学部機械工学課を卒業

1990年4月 : 日本発条(株) に入社

1993年3月 : 結婚(社内結婚)

1994年9月 : 長男誕生(今は中2)

1996年12月: 長女と次女同時誕生(二卵性の双子)

2003年2月 : マイホーム購入(横浜市内)

現在、日本発条(株)の営業課長として躍進中。



我が家の愛犬(チワワ)



現在の愛車(エスティマ)

② 私が西海ゼミにいた時(1989年)に無くて、今(2008年)あるもの そして今、感じること

これらはもちろん全て文明の進歩によるものだが、弊害について感じることを述べてみます。

(この寄稿を読んでくれる若い人は、もし今これらがなかったらどういう生活をしているか想像してみると面白いかも…。)

- ・ 携帯電話 : ルーズになっている(例・・・待合せ時刻に対する遵守率が低下している。)
- ・ インターネット(メール) : 会話力の低下
- ・ HEV・EV・FCV : これは弊害無いか
- ・ カーナビ : 道を覚えない(頭を使わない)
- ・ Windows パソコン : これも弊害は思いつかない。
- ・ 地球温暖化に対する取組 : もっと昔から取り組むべきであったと反省してます。

私が西海ゼミにいた頃の自動車は、馬力戦争全盛期で排気ガスや燃費のことは気にしてなかったからなあ(反省)

いずれも非常に便利なものばかりなのでいいところもたくさんあるのですが、それらは皆さんご存知だとおもうのでここではあえて触れませんね。改めて、文明・技術の進歩に感謝いたします。
項目は他にもたくさんあると思いますが、この辺でやめておきます。
これ以上進むと、おじさんの愚痴(最近の若者は・・・)みたいになってしまうので。(笑)

そうそう、先日、新橋の駅前(SL広場)で日本テレビのインタビューを受けました。

(島田伸介の深い話)

もちろん、私は酔っ払ってたのですが・・・。

インタビューの内容は

『最近の若者は・・・。で一言お願いします。』

というものでした。

どう答えたか覚えてませんが、結局私のインタビューはオンエアされませんでした。

多分、下記のようなTVとしては面白くないことを言ってしまったのではないかと考えてます。

『このフレーズ(最近の若者は・・・)は古代ギリシア哲学者のプラトンも言っていたそうで、昔からよく自分に自信が無い人が使うフレーズなんじゃないか・・・。』

つまり、私は若者に対する愚痴ではなく、そういうことを言う人に対する愚痴を言った感じです。すみません。西海ゼミ 30 周年と関係ありませんでしたね。この辺でやめておきます。



日テレのインタビュー(新橋駅前 SL 広場にて)

③ 西海先生の深い話

この章で寄稿は終わりにします。

私が在学中に、西海先生からいただいた言葉で忘れられない言葉があります。

それを紹介させていただき、締めくくらせていただこうと思います。

- ・ 私は、お恥ずかしい話ですが、勤勉な学生ではありませんでした。研究室へ来る頻度は当時の同窓生の中でワースト1だったのではないかと思います。イベント事(花見等)には必ず参加してたのですが・・・。
- ・ 研究内容については、修士の方(蔵さん)の助手的な位置づけでしたが、ほとんど役に立ってなかったという状況です。
- ・ 以上のような背景につき、自業自得なのですが、当然卒業できないであろう(留年)と思ってました。卒論は蔵さんのご指導ご協力の下、少しずつ書いておりましたが。
- ・ そこで、1990年2月、恐る恐る先生に『私は卒業させてもらえるのでしょうか?』と聞いたところ、先生からこのような深い回答をいただきました。

『内田君は、来年ではなく今年、つまり今の状況で卒業させた方が、社会で痛い目にあって君のためになると思うから、卒業させるよ。』

先生のコメントの通り、入社後、同期と比べて基礎学力が低いことを痛感し、かなり痛い目に会いました。

その後、一生懸命勉強し、現在ではなんとか第一線でがんばっております。

この西海先生のお言葉が、本心なのか?、先生は覚えているのか? わかりませんが、先生の『厳しさ』そして『愛情』を感じることができた私には忘れられない一言です。

西海先生、30周年記念、本当におめでとうございます。

西海先生そして、西海ゼミOBの益々のご活躍ご発展を祈願し、これにて締めくくらせていただきます。

ありがとうございました。